

10 AUG 2006

毎日新聞

暮らし 話題 事件

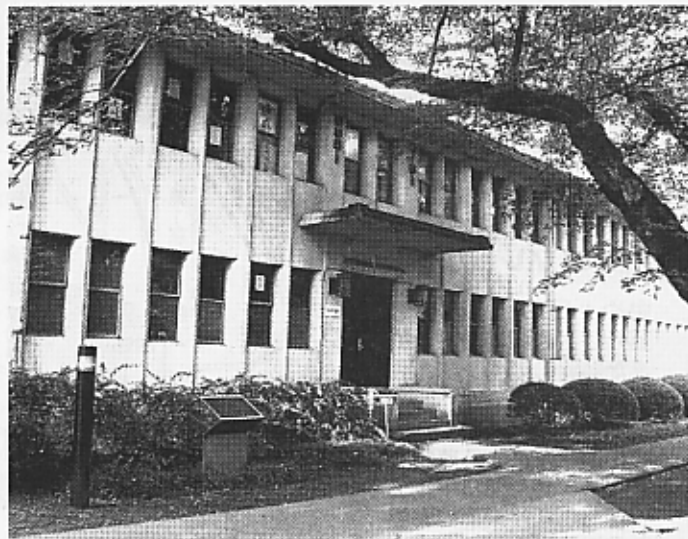
日本初 女子個室で鉄筋コンクリ製 築82年

東京都杉並区の東京女子大にある旧学生寮「東京(5号館)」が来年、大学のキャンパス整備計画に伴い、取り壊される。大学が共同生活で自立した女性を育てる場と位置づけた日本初の女子個室寮で、開学6年後の1924年に「日本近代建築の父」と呼ばれた米国人建築家、アントニン・レーモンド(1888〜1976年)の設計で建てられた。卒業生だけでなく、建築家からも惜しむ声が上がっている。

旧東寮は、中庭付きの鉄筋コンクリート2階建てで、当初は個室(3畳)が102室あった。60年間寮だったが現在はサークル室になっている。体育館とともに来年度から取り壊しが始まり、08年度までに跡地に新体育館棟を建設する計画だ。

同大には、レーモンドが設計した礼拝堂・講堂などが9棟あり、うち7棟が98年に国の登録有形文化財になった。

東女大寮 解体へ



取り壊し計画がある東京女子大の旧東寮(5号館)
—東京都杉並区で、益子写す

旧東寮と、ともに解体予定の体育館は、整備計画があったため登録されなかった。建築物としての評価が高く、近代建築の保存調査をする国際組織「ドコモモ」の日本支部(鈴木博之代表)は今月初め、保存の要望書を同大に提出した。藤岡洋保・東工大教授(近代建築史)も「大寮の寮では日本初の鉄筋コンクリート造り。鉄筋の設計や構造などにも価値があり、近代建築史上注目すべき建築物として」としている。

これに対して、同大は「文化的価値の高さや寮への卒業生らの思いは十分理解している。しかし、老朽化も進み、防災上の問題などを含め、取り壊しはやむをえない。寮の存在は、記録に残していきたい」と話している。

卒業生や建築家 惜しむ声

【益子香里、内藤彰子】東京女子大 1918年に創立され、初代学長は新渡戸稲造。女性に大学への門戸が開かれた時代には、女性の高等教育に代表的な役割を果たしてきた。卒業生には、作家の永井路子氏、堂本暎子・千葉泉知事らがいる。

新薬開発へ橋渡し

大学から企業へ全国に拠点作り

文科省来年度から

外の大学などと組んで治験を行う「治験の空荷化」も進んでいる。

日本製薬工業協会によると、国内製薬会社の治験の最初の実施場所は1993年は日本が36%、海外が18%だったのに対し、2000年では日本が70%、海外が13%にと

大規模な臨床試験の前に、大学レベルで小規模な試験ができる体制を整える。具体的には来年度、全国から10カ所程度を選び、合わせて30億〜40億円程度を検討中で5〜10年程度支援を継続する。

臨床試験の専門医師、



◆双子姉妹パンダが双子出産 【北京・共同】新華社電によると、中国四川省成都のパンダ繁殖育成研究基地で、双子の姉妹パンダが連日相次いで双子の赤ちゃんを出産した。専門家は



◆米朝さん腰痛め入 落語家、桂米朝さん(65) 日未明、兵庫県尼入院した(い) 庄迫

ヒテオ(メンシ)に、イオフレイヤ15台▽ホ、ター1台▽NTT東日本電話(2台) 1組▽日通円分5組▽ヤマハ管10組▽1台▽シタックス管10組▽2本セット10組▽都市対野球グッズ10セット 主催 東京ドーム 後援 毎日新聞社、日ポーツニッポン新聞社 協賛 東芝、日立製薬業、本田技研工業、NTT通運、ヤマハ、シタックス

全国スラム選口数 2883
74万9200円(29)
6万2400円(308)
40万5800円(108)
2万1200円(1705)